

4・1常磐線運行再開反対ストが怒りに火をつける 会社震撼させた「スト破り全員拒否」

動労水戸

支社異例の「直接面談」

4月1日、被曝労働と住民帰還の強制につながる常磐線浪江～小高開通に対して、動労水戸は抗議のストライキを貫徹した。勝田運輸区では国分勝之副委員長と高野安雄副委員長がストに入った。会社はストの代務を当日休みだった運転士26人に要請したが、全員がこれを拒否。やむなく指導員を乗務させる羽目となった。

この事態に対して、水戸支社は、人事課・運輸部の副課長が現場管理者の頭越しに直々に勝田運輸区の現場に入り、代替対象だった運転士と一人ひと



「運行再開」一審列車に抗議し街頭宣伝(4月1日)

りと面談を行い「なぜ代替に応じなかったのか」を「調査」するという異例の対応をとった。

JR東労組は組合の制止を振り切つて強行された「調査」に対して「不当労働行為だ」と騒ぎ立てている。しかし、事態の核心は、ストライキで闘う労働組合とそれをとりまく労働者の力がひとつになったときに生み出されるとつもない力と可能性に、会社もJR東労組も震え上がったということではないか。労働者には現状を変える力があるということを知らしめたのではない。

職場の怒りを思い知れ！

水戸支社管内の運転職場の過重労働は過去最悪の状況だ。誰もこれまで経験したことのない極限的な疲労とプレッシャーの中での乗務が強制されている。体を壊して長期休業を余儀なくされる運転士が続出し、とりわけ昨年末から今年3月にかけては会社都合の勤務変更や休日勤務が乱発・常態化している。勝田運輸区では月間の超勤限度を超えてしまったがために

所定の行路を変更させられる乗務員まで出た。

会社はこういった状況を百も承知で、3月ダイヤ改でも目に見えた改善は行わない。職場の全員が腹に据えかねていた中で、不満と怒りが一斉に噴出したのが4月1日の事態だったのではない。

動労水戸のストの代替と知らされたとしたら承知してもいいか葛藤もあつたらう。不満はあつてもなかなか管理者の要請にノーとは言えないのが現実だ。それを押しつまで全員が拒否した職場の仲間には心から共感する。

労働組合とは ストとは 動労水戸はこう考える

労働者・乗客・住民の命と健康・安全をおびやかす会社の施策に絶対反対で闘うこと……これが労働組合の責任だと動労水戸は訴えてきた。動労水戸・動労総連合は、賃金や労働条件のみならず、外注化反対・被曝労働反対という労働者の切実な要求を貫くため、目先の利



ストで浪江駅前へ結集し、運行再開を徹底弾劾(4月1日)

害を越えてストライキで闘ってきた。労働者が職場と社会を動かしているからこそ、それを団結の力で止めるストライキには社会を変える力がある。

東労組は今年に入つてのスト権「一票投票」でスト権は事実上確立」と言っている。労働者が切実に現状変革を望んでいるのにストが打てないのは、東労組幹部が「スト権」を会社との取り引きの手段にしているからだ。

実は労働者が団結してストに立ち上がった時の全てを変えるような威力を、会社も東労組の幹部も本当は恐れている。動労水戸は逆に労働者の持つ力

をとっとん信頼しているから闘えるのだ。

ストで闘う労働組合は 必ず戦争を止められる

北朝鮮の動向が連日大々的に報道され、国会では戦争に必要不可欠な「共謀罪」が制定されようとしている。有事を理由にあらゆる鉄道を使った軍事訓練が始まっている。

戦時中、全世界で軍事輸送と植民地支配のために大量の鉄道員が動員された。鉄道施設や列車は攻撃の標的となり、膨大な数の労働者が命を落とした。「国民を守るために国の命令に従え」の次は「戦争に勝つために血を流せ」となるのだ。

韓国民主労総・鉄道労組と連帯してストライキに立ち上がることこそが、戦争を始まる前に止める最大の力だ。「闘っても勝てない」と繰り返す組合幹部たちが、必死で覆い隠そうとする真実がそこにある。

正規・非正規の分断も企業の分断も越えて、全国の青年が今こそ一つに団結して職場と世の中を変えよう。

スト破り拒否で示した怒りをはっきりとした形にしよう。動労総連合に結集し、青年自身の手で労働組合を取り戻そう！